

あたらしくはいった本 (令和6年4月 貸出開始資料から)

- 小説 こまどりたちが歌うなら(寺地はるな/著) 魂の歌が聞こえるか(真保裕一/著) 家族解散まで千キロメートル(浅倉秋成/著) 不思議な時計(北村薫/著) 怪談刑事(青柳碧人/著) 佐渡絢爛(赤神諒/著) あいにくあんたのためじゃない(柚木麻子/著) 定食屋「雑」(原田ひ香/著) マガツキ(神永学/著) spring(恩田陸/著) 別れを告げない(ハン・ガン/著) 出会いはいつも八月(G.ガルシア=マルケス/著)
- 随筆・詩などの文学 魔法のまなざし(角野栄子/著) マリコ、アニバーサリー(林真理子/著) 見る・知る・学ぶ名所旧跡でぐぐるとわかる日本文学(ロバート・キャンベル/監修・解説)
- その他の本 老いてお茶を習う(群ようこ/著) 肩こり・五十肩・腱板断裂肩の痛みがよくなるすごい方法(歌島大輔/著) 平野レミの自炊ごはん(平野レミ/著) 飼い主のための「犬のお手入れ」の教科書(奥田香代/監修) 「なぜ!？」からはじめる政治・経済(藤井剛/著)

みんなの としょかん



ホームページ

市民図書館

TEL (921) 4646
FAX (921) 4896

特別整理期間のため 市民図書館とすすく号はお休みします

休止期間 6月17日(月)~26日(水)

注意事項

- ・すすく号は7月2日(火)の5コースから巡回を再開します。
- ・本は図書館玄関横、いきいき情報センター内の「ほんのポスト」に返却ができます。ただし、CD・DVDほか、返せないものもあります。注意してください。

としょかんカレンダー

令和6年	日	月	火	水	木	金	土
6	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太子の日)は午後7時まで

古代山城と大宰府(1)

私はこの欄で何回かにわたって、古代大宰府の軍事的機能を考えてみました。今回も引き続き、その一環として、古代山城をめぐる問題について考えてみましょう。

大宰府の軍事的機能を考えるうえで重要なのは、やはり白村江敗戦後の天智天皇3(664)年、壹岐・対馬・筑紫などに設置された防と烽、また同年、筑紫に築造された水城、そして翌年の大野城・椽城の築城でしょう。

大宰府の文筆

~公文書館だより⑫~

わけて古代山城と呼ぶことが、ようやく一般的になってきました。

さて、この天智朝には、那津(博多)から現在の政庁跡に大宰府が移転したものと考えられており、この時に先に述べたような軍事的機能が付与されたことから、大宰府は軍政府として成立したと説かれることもあります。確かにそうした側面があることも一概に否定できませんが、その後における大宰府の軍事的機能の展開を考えると、この時付与された軍事的機能は、まさに白村江敗戦という国家存亡の危機ともいえる事態に即応するための緊急的、臨時的措置とみることもできるのではないかと思います。

それは令制にみえる大宰府が「那津官家」、筑紫大宰、筑紫総領など、さまざまのプロセスを踏みながら段階的に整えられていったと考えられるからであり、そのことを念頭において、天智朝における軍事的機能の付与を、一旦相対化してみることも重要ではないかと思うのです。そうしたことを踏まえたうえで、先にふれた古代山城のあり方を再検討してみる必要性もあるのではないかと考えています。

一方で、瀬戸内地域から北部九州にかけては、いわゆる神籠石系山城と呼ばれるものが分布しています。この神籠石系山城は、その性格(靈域説か、山城説か)をめぐって、明治時代に論争が起りました。現在の研究段階では、朝鮮式山城と神籠石系山城とを合

大宰府市公文書館

重松

敏彦

【バックナンバーはこちら】 ページID7241